

# 九州体育・スポーツ学会第62回大会 プログラム内容(概略)

大会プログラムの概要ができましたので、掲載します。

未確定部分の変更・追加等は随時掲載していきます。なお、最終版は7月下旬となります。

## 1. プレセミナー

**テニス授業セミナー** (より速く！うまく！分かりやすく！)

企画：九州地区大学体育連合との合同企画 (代表：斉藤篤司)

概要：授業の導入として、「授業効果を高めるための活動的アイスブレイク」により心身をほぐし、Play-Stay用のボールを使った「テニスXpress」により授業初日から試合ができることを目標に「iPadを用いた映像によるフィードバック方法」により授業をわかりやすくするセミナーを行います。

**チーム力アップセミナー**(仮題)

概要：自己分析と他者理解を通して、集団の特性を知ることが目的とし、目標を達成するためには何が必要か、グループワークを通して「本来のチーム力とは？」をテーマにチーム意識とその構造を理解する。

企画：メンタルトレーニング研究会 (代表：磯貝浩久)

**身体コミュニケーション**

企画：第3専門分科会 (代表：中島憲子)

**スポーツ実技と指導法**

概要：バスケットボールとバレーボール、サッカー (フットサル) 3種目の指導法を実践形式(ゲーム)を通して検討し、技能と指導について学生間で意見を交わし、「研究とスポーツの融合」を図る。

企画：学生企画委員会 (代表：芦江源太)

## 2. 特別講演

テーマ：**プロ野球チームのマネジメントと地域戦略**

講演者：小林 至 氏 (福岡ソフトバンクホークスマーケティング株式会社取締役、

福岡ソフトバンクホークス海外兼中長期戦略担当部長、江戸川大学社会学部教授)

## 3. 全体シンポジウム

テーマ：現場における体育・スポーツ学会からの知見や技術の活用

スポーツ科学によって得られた知見や手法は、スポーツや競技の現場で利用されることが望ましい。保健体育の現場においても、生涯スポーツの実践と健康で豊かな生活をおくるために 役立つ情報知識の伝達や技能・態度の涵養が重要である。体育・スポーツの分野では、現場と科学の融合、Bridge the gap などのキーワードのもとに「スポーツ科学の知見や技術手法をどのように競技の現場に応用できるか」「予防体育は実践できるものか」「運動能力と学ぶ力は関係するか」「理論と実践の双方向性」など、多くの疑問や議論の余地が残されているようである。現場からの要望も多々あると思われる。当学会においては、温

故知新の観点と先進気鋭の知見といった双方からのアプローチにより「体育・スポーツ現場の気づきや学会サポートの事例等、体育・スポーツの発展と学会・研究充実のために、実りあるシンポジウムが展開されることを望む。

司会・演者：未定

## 4. 専門分科会シンポジウム

### 〔第1・3専門分科会合同〕

テーマ：『運動会』を考える—学校体育活動としての存在意味と可能性

概要：本シンポジウムでは、学校体育活動としての「運動会」に着目し、体育（授業）の役割を逆照射的に検討する。はたして、今日の「運動会」は「体育」で育ませるべき学習内容と整合しているのか？ 各学問分野からの批判的（横断的）検討を通して、最終的には「体育（学）」の果たすべき責任と可能性を見出したい。

演者（案）：

- ・第一分科会体育史関係者「学校における『運動会』をめぐる歴史的意味性とその変遷」
- ・体育社会学関係者 「運動・体育の『楽しさ』に関する社会学的解釈」
- ・中島憲子（第3専門分科会世話人：中村学園大学）「『運動会』の可能性—“カンボジアに学校体育の素晴らしさを届けるプロジェクト”を通して」

コーディネーター（案）：

- ・谷口勇一（第1専門分科会世話人：大分大学）
- ・古田瑞穂（第3専門分科会世話人：筑紫女学園大学）

### 〔第2・4専門分科会合同〕

テーマ：健康づくりのための身体活動基準2013

概要：健康日本21（第二次）の推進に資するため、「健康づくりのための運動基準2006」が改定され、「健康づくりのための身体活動基準2013」が発表された。本シンポジウムでは、その概要と今後の展開について議論を深めたい。

司会・演者：未定

### 〔第5専門分科会〕

テーマ：スポーツ選手のセカンドキャリアについて

概要：現在、JOC補助により、現役のトップレベル競技者を対象としたキャリア形成支援が行われているが、1. トップレベルで活躍できる競技者は限られていること、2. スポーツ分野に限らないキャリアの多様性を確保する必要があることが採用条件として挙げられており、トップの活動水準が要求されてしまっているようである。トップ選手に限ることなく、スポーツにおける競技生活の初期からキャリア意識の向上やキャリアデザインを描く経験の重視を図る必要性が再認識されることが重要である。また、ジュニア競技者のキャリア意識の向上等には、保護者や指導者など周囲の理解が重要な役割を果たすと考えられる。今回のシンポジウムでは、『自立するスポーツマン育成』の観点よりスポーツ選手のセカンドキャリアを意図した教育プログラムやスポーツに関連した職能を開発した事例等を交えたシンポジウムを開催したい。

司会・演者：未定

## 5. トピック・セッション

### 大学体育授業の実践例 ―種目「を」学ぶから、種目「で」学ぶへ―

概要：大学における体育実技（共通科目）においては、スポーツ種目を教えることだけ（ルールや技術向上など）でなく、それぞれの体育授業の目的を達成させるための「方法」として、各種目が提供されるのが望ましいという考えを基に、その実践例を紹介する。内容としては、大学体育の目的を整理し、そのためにどのような授業を実施しているのか、それをどう評価するのかといった事例を演者から提示し、フロアとの活発な議論を期待したい。

企画・司会：中山正剛（別府大学短期大学部）

演者：木内敦詞（大阪工業大学）、田原亮二（名桜大学）ほか

### 車いすテニス選手の競技力向上支援プロジェクト-ロンドンパラリンピック出場までの取組みについて-

概要：西九州大学は、2011年3月に、当時車いすテニス競技でロンドンパラリンピック出場を目指していた選手の競技力向上をサポートするプロジェクトを立ち上げた。その内容は、メディカルチェック・健康管理をはじめ、栄養管理、運動能力及び機能、心理、トレーニングの各部門から構成された。発表では、同大会へ出場を果たし、ダブルスで4位の成績を収めるまでの約1年半のプロジェクトの取組みについて紹介する。

企画・司会：近藤芳昭（西九州大学）

演者：プロジェクトの各部門担当者（山田力他ほか）

## 6. ラウンドテーブル・ディスカッション

### チームパフォーマンスの新たな評価方法

概要：チームスポーツのパフォーマンスを評価するために、私たちが取り組んでいる2つの方法を提示して、議論したい。一つは、選手の特徴を自己組織化マップ（SOM）で学習させ、その特徴を基にチーム間の関係性を解析する方法である。もう一つは、セイバーメトリクス（データを統計学的見地から客観的に分析し、選手の評価や戦略を考える分析方法）である。これらは、選手構成やチーム成績に有益な情報を提供できる可能性があるが、さらなる改良や現場での活用法について意見交換できればと考えている。

企画・司会：磯貝浩久（九州工業大学）

演者：堀尾恵一、吉田慎平、萩原悟一（九州工業大学）

## 7. スチューデント・セッション

### テーマ：大学院生として体育・スポーツの役割をどう捉えるか ―「スポーツ基本法」から読み解く―

概要：本年度のスチューデント・セッションでは、平成23年に施行された「スポーツ基本法」をもとに、体育・スポーツの在り方、よりよい進め方についての方法を議論したい。

スチューデント・セッションは、他大学の院生たちの意見を相互に交換することで様々な知見が得られ、さらに互いに刺激し合い、院生の今後のよりよい研究活動に生かすことを目的とする。

司会（仮）：芦江源太、馬渡洗二

演者（仮）：林田賢朗、大橋充典、平山沙季、萩原悟一